

令和6年度 特色ある道徳教育推進校
市原市立国分寺台東小学校

研究主題

「心が響き合う道徳教育」
～自己を見つめ、思いを持ち、素直に表現できる子どもの育成～

○「道徳の時間」の充実のために

取組1 指導方法の工夫

- ・授業の流れ、ポイントを押さえた指導をする。
- ・ペアやグループでの話し合いの充実を図る。
- ・道徳で活用する教具を作成する。
- ・板書の方法の検討をする。
- ・多様な指導法を学び、積極的に取り入れる。(ICTの効果的な活用→自己表現)



【ペープサート】



【読み聞かせ】



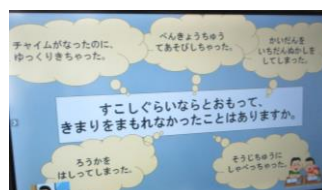
【パネルシアター】



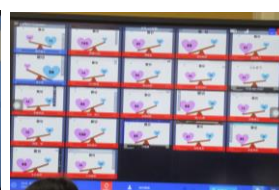
【話し合い活動】



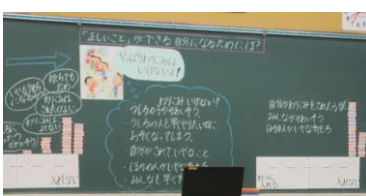
【チャートの活用】



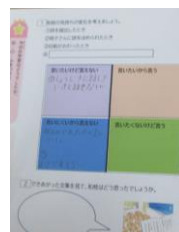
【ICTの活用】



【板書の工夫】



【ワークシートの工夫】



取組2 授業力の向上を目指して

- ・学年で指導法、授業の様子を話し合う。
- ・道徳授業向上のための情報共有をする。
- ・授業研究の実施をする。
- ・道徳の授業を見合う。

◎授業公開の実施状況

1年1組 授業者 加藤ひろみ教諭 教材名：「おおひとやま」

ねらい：きまりを守らずに少しだけならいいだろうという考えから行動していると、それが積み重なってみんなが困ることに気づき、進んできまりを守ろうとする判断力を育てる。



成果) パネルシアターによる教材提示は、子どもたちに興味をもたせる導入の仕方であった。導入でクイズを行ったことが効果的であった。

課題) 終末については、自分事にふり返った時に、答えは1つではないがゴールはあることを意識すること。

3年2組 授業者 小野 稷教諭 教材名:「ぼくのボールだ」

ねらい: みんなが楽しく過ごすためには、一人一人の思いや願いをみんなで大切にしなければならないことを理解し、誰に対しても公平に接しようとする態度を育てる。

成果) 授業の雰囲気作りとしてジェスチャーで注目をさせることや、座席の形など良かった。ワークシート(クラゲチャート)を活用し、子どもたちが自分の思いを表現することができた。個から全体へとしっかりと自分の意見を発表することができた。

課題) ICTを活用し、対話力を上げることに挑戦しても良い。

5年1組 授業者 上釜 一輝教諭 教材名:「くずれ落ちただんボール箱」

ねらい: 親切・思いやりは、相手に認めてもらいたい心ではなく、一心に相手のためを思い自分にできることをしようとする心から生まれることに気づき、思いやりの心で親切にしようとする心情を育てる。

成果) ワークシートに理由まで書くことができ、子どもたちの表現力の高さが見られた。タブレットを活用することで、話すことが苦手な児童にも対応することができた。

課題) 対立する意見をもう少し聞くことができればと思った。

主な成果と課題

- 教師の指導力向上→授業を参観することで、授業の流れやワークシートの活用を学ぶことができ、授業力向上につながった。いろいろな道徳の指導方法を学ぶことができた。
- 分科会において→多くの意見を伝え合うことで、道徳の実施方法や考え方について共有することができた。講師から道徳教育の授業展開の方法や評価の方法などを具体的に聞くことで、日々の実践に活用することにつながった。
- 児童の変容→ワークシートの工夫や ICT の活用により、自分の考えを書くことへの抵抗は減った。ペアやグループで話し合う活動を通して、自分の考えを表現できる児童が増えた。
- 授業展開において→話し合い活動を、チャート記入後に取り入れることで、校内の研究テーマの自分の気持ちを素直に表現する力に繋げることができた。チャートで自分の気持ちを考え、話し合い活動で違う意見に触れることで様々な考え方に触れ、気持ちグラフを書く際に心の揺れ動き(揺さぶり)があった。
- 東小の道徳スタイルを確立することができてきた。
- 教材研究、展開、指導案について→題材に合ったさまざまな指導方法を学んでいきたい。
- 使用するチャートの選定が難しかった。ねらいや目的によってどのチャートが有効か、さらに選定していくことが重要である。
- 教材によって、学習のまとめ方を考えていく必要がある。
- 児童の発言を広げることができるような発問の工夫に更に努めていきたい。
- 1つの意見に偏ることなく多角的なものを見方ができる児童の育成を図るため、意見交換を児童間で広げていくことができる方法を考えたい。
- 道徳における ICT の活用をこれからも研修していきたい。

小学校第3学年2組 道徳科指導案

1 主題名 みんなが楽しく C「公正、公平、社会正義」 教材名 ぼくのボールだ

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする内容項目について (ねらいとする価値について)

集団や社会において、公正、公平にすることは、私心にとらわれず誰に対しても分け隔てなく接し、偏った見方や考え方を避けるようにするべきである。自他の不公正を許さない断固とした姿勢をもち、力を合わせ差別や偏見をなくす努力が重要となると考え、本主題を設定した。

(2) 児童の実態と分析

88%の児童が道徳を好きだと回答し、答えが一つに絞られず自由に思考できる良さを感じている。27%の児童は発表に苦手意識があるため、少数グループで話し合いを行い、自分の気持ちを表現できるようにさせたい。その中で、公正・公平に友達と接することの必要性や難しさも考えられるように指導したい。

(3) 教材について

児童は、この教材の出来事と似たような経験をしており、主人公の「ぼく」に自身を重ねて考えやすい教材である。皆がドッジボールを楽しむためには、違う価値観を持った友達同士でも、公正・公平に関わる大切さを考えさせることが重要である。

(4) 指導観

- ・思考ツール「クラゲチャート」を用いて、双方の立場の意見を考えさせる。
- ・「気持ちグラフ」に示すことで、自分の気持ちを可視化できるようにする。
- ・学習後に自分の思いを掲示し、本時の学びを生活の中でも生かせるようにする。

3 展開

課程・時配 (学習形態)	学習活動・主な発問と児童の反応	○指導上の留意点(UDの視点も含む) ☆評価(方法) ◎個別の支援	資料
導入 5分 (一斉)	1 本時で考える価値項目について 問いかける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> みんなが楽しく生活するにはどうする？ </div>	○みんなが楽しく生活できる方法を考 えていくことを理解させる。	
展開 30分 (個人) (少人数班) (一斉) (個人)	2 資料「ぼくのボールだ」を読み 考えていく。P140・10行目まで ○「ぼく」はどうしたらよいのかク ラゲチャートにそれぞれの立場で 意見をまとめる。 ボールをわたす・わたさない。 ○グループで意見交換をする。 ○全体で意見を共有する。	○電子黒板にスライド(挿絵)を提示 し、紙芝居方式で読み聞かせする。 ◎考えることが難しい児童には、机間 指導を行い、声掛けをする。 ○3、4人のグループで行う。 ◎実際の遊びを想起し、考えさせる。	電子黒板 PowerPoint クラゲチャート
	3 自分だったらどうするのかを 「気持ちグラフ」にまとめる。		気持ちグラフ

	○黒板のハートにマグネットを貼り、それぞれの考えを共有する。		氏名マグネット
(一斉)	4 物語を終末まで読み聞かせ、それぞれの思いについて考えさせ「公正・公平」の言葉を知る。	☆一人一人の思いや願いをみんなで大切にしようと、考えを深めようとしていたか。【ワークシート・発言】	
終末			
10分	5 学習を振り返り、学んだことや大切にしたい考えを感想に書く。	○本時の学びを踏まえて、自分の言葉で気持ちを整理させる。	
(一斉)			

4 授業の様子

(1) 板書

第24回 みんなが楽しく「ぼくのボールだ」

ぼく まさと たかし
とく意 苦手

○ドッジボール
たかしがとったボール
↓
ぼくはたかしからとる
↓
まさとにボールをわたそうとする
↓
いやだ！
ぼくのボールだ！
どうする？

みんなが楽しく生活するにはどうする？

たかしにわたす

たかしにわたさない

公正・公平

☆なかよく遊ぶためには？

・
・ 児童の考え
・

← わたさない

→ わたす

♡♡♡♡

(2) 児童の様子

〈児童の振り返り〉

- ・一人一人の気持ちを考え、思いやりや優しさをもって遊びたい。
- ・相手の気持ちを考えれば、みんな公平・公正でうれしい気持ちになれる。

〈参観者の感想〉

- ・児童にとって身近な題材であり、思考ツールによって児童の考えを表現できていた。
- ・板書がすっきりとまとまっていて、伝えたい内容が分かりやすかった。
- ・児童の意識が高まるような掲示物が教室に用意されていてよかった。
- ・最後に、普段クラス別でやっているドッジボールに触れたら、さらに広がりがあった。

〈授業中の様子〉

